

資産を活かした空間を演出し、新たな港の顔、市民の憩いの場、交流の場として整備が行われました。

■象の鼻の名前の由来

象の鼻の名前は、安政6年（1859年）の横浜開港に当たり整備された2本の直線的な波止場のうち東側の波止場が慶応3年（1867年）に湾曲した形に変更され、そ



象の鼻パーク遠景



象の鼻パーク配置図

の形状からいつしか「象の鼻」と呼ばれるようになり、「横浜築港誌」（内務省臨時横浜建築局・明治29年（1896年））にはじめて「其埠頭ハ海岸ヨリ直ニ海面ニ突出スルコト五百余尺、西方ニ屈曲シテ一ノ象鼻形ヲ為セリ。」と記載されました。

■歴史的港の遺構の活用

鉄軌道、転車台、横浜税関遺構煉瓦造2階建倉庫の基礎及び石積の防波堤など工事中に発見された明治期の港の遺構を残し、解説板などにより象の鼻地区の歴史や港の遺構などを紹介しているのでぜひ探してみてください。

また、山下公園西端から新港橋の間に残っていた鉄道高架橋を利用し平成14年（2002年）に遊歩道としてオープンした山下臨港線プロムナードからも象の鼻パークや赤レンガ倉庫を眺めることができます。

象の鼻パークでは、イベントがしやすい広い芝生の斜面や広場があることから Dance Dance Dance @ YOKOHAMAでの屋外パレエ公演やスマートイルミネーション横浜などのアートイベント、中区民まつり「ハローよこはま」やベトナムフェス

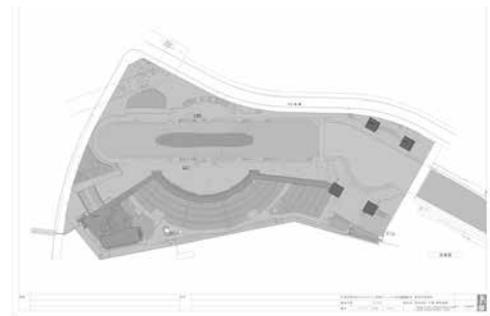
タなど日本大通りと一体的に利用される大規模なイベントなども開催されています。

4 日本丸メモリアルパーク

横浜船渠株式会社第一号船渠（※1）、帆船日本丸（※2）を保存・活用して昭和60年（1985年）に供用開始



帆船日本丸大規模修繕工事の様子



日本丸メモリアルパーク配置図

した緑地で、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム、イベントが実施できるアリーナが設置され、横浜みなと博物館の屋上の芝生斜面から新港ふ頭につづく鉄道敷を遊歩道に整備した汽車道などを眺めることができます。帆船日本丸のメインマストやスクリュー・プロペラ、横浜船渠株式会社のエア・コンプレッサーやみなどみらい21埋立事業の礎石などもパーク内に展示され、アリーナでは昭和61年から毎年、吹奏楽演奏会が実施されています。

5 まとめ

このように新港地区、象の鼻地区ではウォーターフロントに賑わいの創出や憩いの場所をつくと共に、まちの活性化のために歴史的な資産を残しながら未来につなげるような緑地の整備をしてきました。また、平成31年（2019年）4月に施行される港湾施設条例では港湾緑地の機能増進に寄与する便益施設等の設置を民間事業者に許可できるようにになりました。

これからも横浜市都心臨海部再生マスタープランに記載されているように港町ならではの歴史・文化的な資産を次

世代へ残し、更なる賑わいを創出していきたいと思えます。

引用元資料

- ・ Information2018 Vol.89（横浜市都市整備局みなどみらい21推進課ほか）2018年3月
- ・ 赤レンガ倉庫保存活用事業の概要（横浜市港湾局賑わい振興課）2018年11月
- ・ 国指定重要文化財 帆船日本丸見学会資料（横浜市港湾局賑わい振興課）2019年1月
- ・ 象の鼻パーク パンフレット（横浜市港湾局）2009年3月
- ・ 帆船日本丸 横浜みなと博物館パンフレット（帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン）2018年4月

※1 横浜船渠株式会社第一号船渠（第一号ドック）

横浜船渠会社が船の修繕用に明治31年（1898年）竣工した明治期の代表的ドックの一つです。横浜船渠会社が昭和10年（1935年）に三菱重工株式会社と合併したことで、三菱重工横浜船渠となりましたが、昭和58年（1983年）の三菱重工横浜船渠の移転に伴い昭和60年（1985年）から帆船日本丸を係留するドックとして活用され、平成12年（2000年）12月4日に国の重要文化財に指定されました。

※2 帆船日本丸

帆船日本丸は昭和5年（1930年）に建造され、練習帆船や戦後の引揚者の帰還輸送などに使用されたのち、昭和60年（1985年）3月に第一号ドックに係留され4月から一般公開され、平成29年（2017年）9月15日には国の重要文化財に指定されました。

平成30年（2018年）11月、平成31年（2019年）3月の予定で第一号ドックを約20年ぶりに水を抜き帆船日本丸の大規模修繕工事を行っています。